

誰も自殺に追い込まれることのない天童市 いのち支える天童市自殺対策計画 ～ 概要版 ～

基本理念

人の「命」は何ものにも代えがたいものです。また、自殺は本人にとって悲劇であるだけでなく、家族や周りの人々に大きな悲しみと生活上の困難をもたらし、社会全体にとっても大きな損失となります。

自殺に至る心理としては、様々な悩みが原因で追いつめられ、自殺以外の選択肢が考えられない状態に陥ったり、社会とのつながりの減少や生きていても役に立たないという役割喪失感から、また、与えられた役割の大きさに対する過剰な負担感から、危機的な状況にまで追い込まれてしまう過程と見ることができます。自殺に追い込まれるという状況は「誰にでも起こり得る危機」です。

自殺を個人の問題としてではなく社会の問題として捉え、自殺対策を生きることの包括的な支援として、すべての人がかけがえのない個人として尊重されるとともに、生きる力を基礎として生きがいや希望を持って暮らすことができるよう取り組み、「誰も自殺に追い込まれることのない天童市」の実現を目指します。

1 計画策定の趣旨

自殺対策を総合的かつ効果的に推進していくために、関連施策との有機的な連携を強化して、「生きることの包括的な支援」として「天童市自殺対策計画」を策定するものです。

2 計画の位置づけ

- 自殺対策基本法第13条第2項に定める「市町村自殺対策計画」として策定するものです。
- 「第七次天童市総合計画」及び「第二次天童市地域福祉計画」を上位計画とし、「第二次健康てんどう21行動計画」等の本市の諸計画との整合性を図ります。

3 計画期間

2019（平成31）年度から2023年度までの5年間

4 数値目標

	現 状	⇒ 30%以上減少	最終数値目標
	平成30年 (2018年)		2026年
自殺死亡率	21.5		15.1以下

※年毎の増減ではなく、直近の5年間の平均数値により求めた。

※天童市の総人口は、2025年には60,701人になると見込まれている。

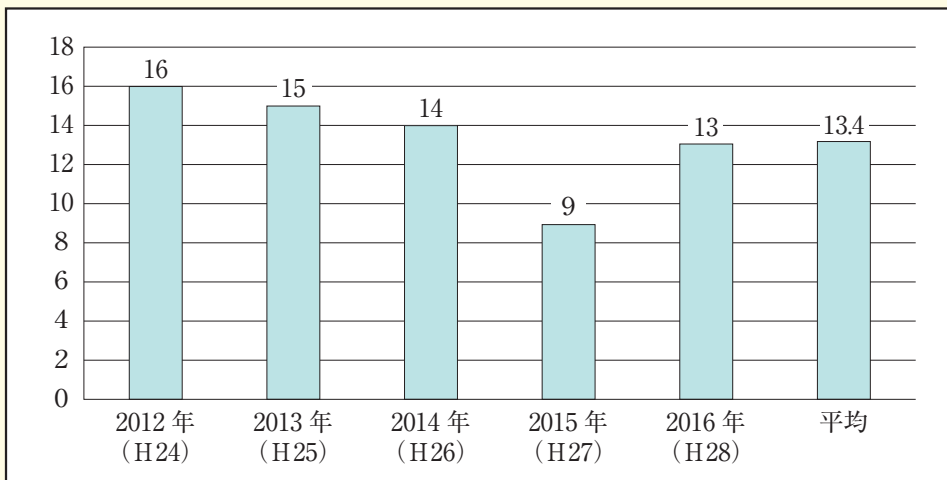


いのち支える

5 本市の自殺の現状

❖ 自殺者数の年次推移

単位：人

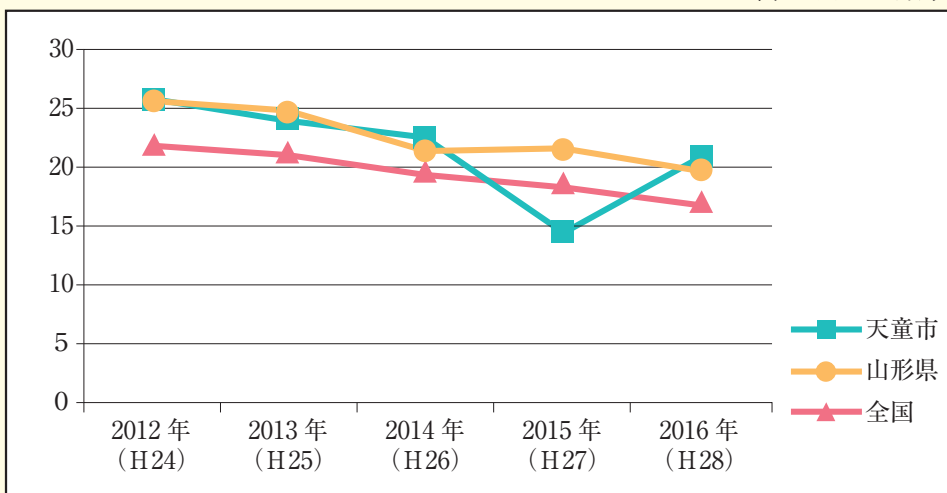


○ 2012 (平成 24) 年から 2016 (平成 28) 年までの本市の合計自殺者数は 67 人となっており、平均自殺者数は、13 人前後となっています。

出典：厚生労働省「地域の自殺の基礎資料」

❖ 自殺死亡率 (人口 10 万人あたりの自殺者数) の年次推移

単位：人口 10 万対



○ 全国、山形県の自殺死亡率は減少傾向にあり、本市も年により変動があるものの減少傾向にあります。

	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)
天童市	25.8	24.1	22.4	14.5	20.9
山形県	25.6	24.7	21.4	21.4	19.9
全国	21.8	21.1	19.6	18.6	17.0

出典：厚生労働省「地域の自殺の基礎資料」

❖ 性・年代別自殺死亡率 (2012 (H24) ~ 2016 (H28) 年平均)

○ 男女とも 20 歳未満の自殺死亡率は全国や県と比べ高い傾向にあります。

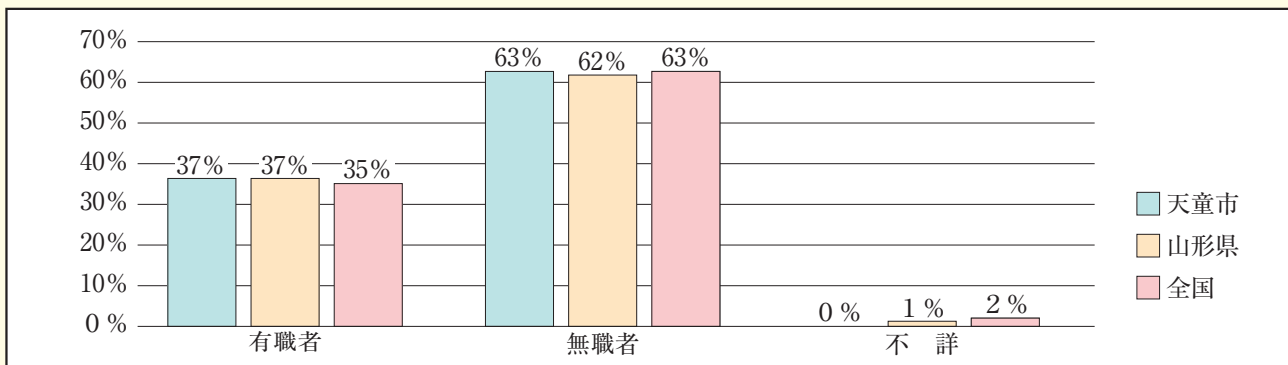
単位：人口 10 万対

		年齢別							
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
男性	天童市	10.2	32.1	44.1	31.7	66.9	21.7	19.6	43.5
	山形県	3.8	38.0	36.0	37.4	43.6	39.1	35.8	51.5
	全国	3.2	27.7	27.6	33.1	38.9	33.0	34.6	42.4
女性	天童市	7.2	6.7	10.3	10.3	19.7	17.4	11.2	11.6
	山形県	0.6	9.6	11.9	11.6	15.1	13.7	19.0	22.8
	全国	1.6	10.8	11.4	12.7	14.4	14.4	17.4	17.7

出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル (2017)」

❖ 就業の有無別自殺者数の割合 (2012 (H24) ~ 2016 (H28) 年合計)

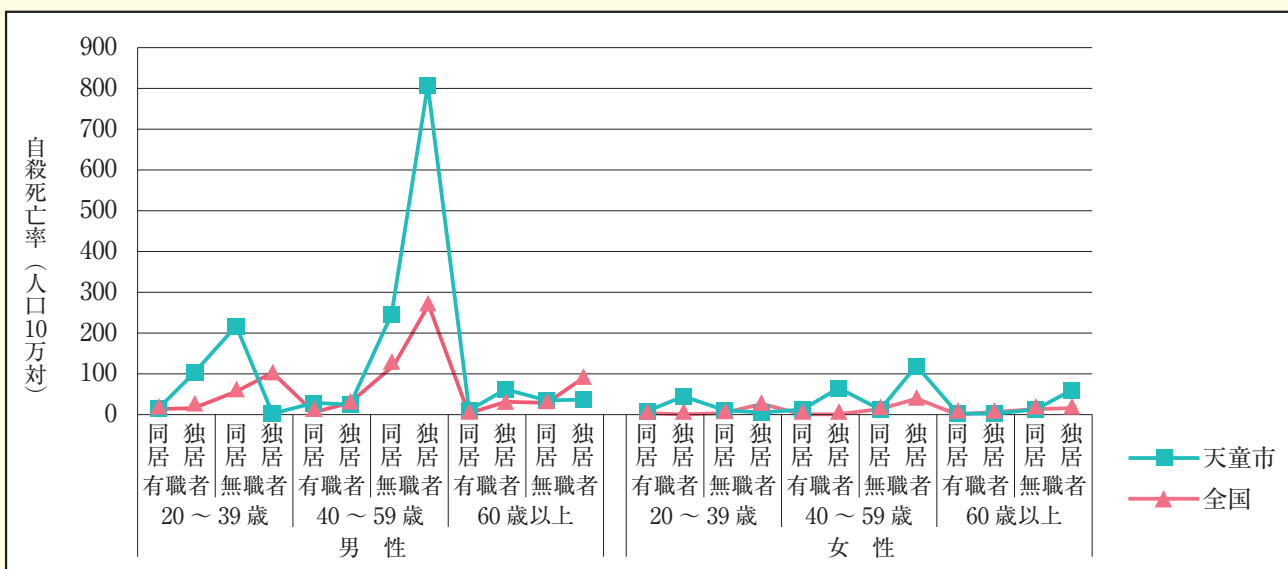
○ 無職者の割合は全国や県と同様の傾向にあります。



出典：厚生労働省「地域の自殺の基礎資料」

❖ 自殺死亡率の概要

○ 同居に比べ独居の自殺死亡率は高い傾向にあります。



出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル (2017)」

6 本市の自殺の現状と特徴を踏まえた課題

1 自殺者数及び自殺死亡率について

自殺者数及び自殺死亡率は、全体としては減少傾向にありますが、自殺死亡率は全国や山形県と比べ高く、引き続き自殺対策を推進していく必要があります。

2 自殺の特徴を踏まえた対策について

地域自殺実態プロファイル*では、本市の特徴として、無職者の自殺者が多く、その背景として失業・退職による生活苦が挙げられています。こうしたことから、失業者・無職者・生活困窮者に対し、重点的に対策を推進していく必要があります。

また、全国や山形県と比べると20歳未満の自殺死亡率が高い傾向にあることから、子ども・若者に対し、重点的に対策を推進していく必要があります。

*「地域自殺実態プロファイル」とは自殺総合対策推進センターにおいて、各種統計資料を基に自治体ごとの自殺の実態を分析した資料

天童市における自殺対策の施策

基本施策1 地域におけるネットワークの強化

自殺対策を推進する上での基盤となる取組が、地域におけるネットワークの強化です。自殺は多様な要因が関係しているため、様々な分野の施策、人々や組織が密接に連携する必要があります。

基本施策2 自殺対策を支える人材の育成

地域のネットワークは、それを担い支える人材がいて、初めて機能するものです。そのため、自殺対策を支える人材の育成は、自殺対策を推進する上での基礎となる重要な取組です。自殺対策を推進していくために、様々な分野の専門家や関係者だけでなく、市民を対象にした研修等を開催することで、地域のネットワークの担い手・支え手となる人材を幅広く育成していきます。

基本施策3 市民への周知と啓発

地域のネットワークを強化して相談体制を整えても、市民が相談機関や相談窓口の存在を知らなければ、適切な支援へとつながることができません。そのため、相談機関等に関する情報を、様々な接点を活かして市民に提供するとともに、講演会等を開催することで、市民の自殺対策に対する理解を深めることができるように、市民への周知と啓発に努めます。

基本施策4 生きることの促進要因への支援

「生きることの阻害要因」を減らす取組に加えて、「生きることの促進要因」を増やす取組を行うことによって、自殺のリスクを低下させる必要があります。こうした点を踏まえて、「生きることの促進要因」への支援という観点から、事業を展開します。

基本施策5 児童生徒のSOSの出し方に関する教育

児童生徒が様々な困難やストレスに直面した際に、一人で抱え込むことなく、信頼できる大人に助けを求めたり、周囲の大人がSOSに気づき、適切な対応ができるよう、児童生徒の居場所づくりや環境づくりとともに、困難な事態や強い心理的負担を受けた時などの対処法を身に付けるための教育を推進していきます。

重点施策1 失業者・無職者・生活困窮者の自殺対策

自殺のリスクが高い無職者・失業者は、離職など就労や経済の問題を抱えている場合もあれば、経済問題以外の傷病、障がいや人間関係の問題等を抱えている場合もあります。また、生活困窮者はその背景として、多重債務、介護、精神疾患等の多様な問題を複合的に抱えていることが多く、社会的な孤立などから自殺リスクが高いと考えられています。失業者、無職者、生活困窮者は様々な背景を抱える自殺リスクの高い人たちであることを認識した上で、重点的に対策を推進していきます。

重点施策2 子ども・若者の自殺対策

自殺総合対策大綱では、「子ども・若者の自殺対策を更に推進する」ことを当面の重点施策の一つとしており、本市においても、子ども・若者に対し、重点的に対策を推進していきます。

いのち支える天童市自殺対策計画 概要版 (発行:平成31年3月)

問い合わせ先 天童市健康福祉部健康課 〒994-0047 天童市駅西五丁目2番2号
TEL 023-652-0884・FAX 023-651-5505

